平成20年度　第6回　渡子小学校校内研修（道徳教育）

◆　日　時　　平成20年10月1日（水）13:40～16:30
◆　場　所　　渡子小学校　1･2年生教室
◆　参加者　　渡子小学校教職員

1　授業公開

主題名　　生き物を大切に　　3－（1）　自然愛･動物愛護
資料名　　『おいたてられた二ひきのかえる』（　出典:東京書籍　）
学習者　　第1学年　男子0名　　女子3名　　計　3名
　　第2学年　男子1名　　女子1名　　計　2名　　（合計　5名）

◆　授業の概要

○　導　入･････カエルはどんな動物か発表させ，住んでいる所のイメージをわかせる。
○　資料提示･･場面絵の工夫や短冊，動作化などにより，繰り返し追われるカエルの気持ちを理解しやすくする。
○　展開前段･･①すみかを追い出された2ひきのカエルはどんな気持ちか考える。
　　②黒くて汚れた水に飛び込んだのは，どうしてか考える。
　　③2ひきのかえるはどんな気持ちでホロホロと歌っているのか考える。（中心発問）
○　展開後段･･①今まで，動物や植物の世話をして，うれしかったり悲しかったりした経験を出し合う
　　②自然や生き物を大切にしていくためには，どんなことをしたらよいか考える。
○　終　末･････大切にしたい渡子の自然の写真を見せる。

◆　協議会

講師――呉市教育委員会　指導主事　神笠雅司先生

○　協議の柱――体験活動と道徳の時間との有機的なつながりを持たせるための総合単元的な道徳学習について。

○　総合単元的な構想図について，生活科や図工科を今日の道徳の時間にかかわらせた構想図に

なっている。生活科での学習は，振り返りの場面でよく出ていた。事前の体験を教師が意図的に仕組んでおり，子どもは自然に取り入れていた。図工科では教師の思いとして，どのように意図していたのか。（今日のテーマに直接かかわるようなことは少なかった。）

○　指導案について――よくわかる指導案である。書けば書くほど味がでて，中身がある物になっている。

○　資料提示について――お面で，カエルになりきらせ，教室全体を使って動作化をさせていった。

（池に入る―追い出される―また追われる―真っ黒いどぶ川に―きれいな池）

1・2年生にずっと座らせておくのはしんどい面もあるので，動かせる場面をつくったことはすばらしい工夫である。初めての試みで慣れていない面もあったが，教師の指示に素直に従ってすぐに直していた。読みではなく，語りでの資料提示はすばらしかった。もう少しテンポアップすれば，追いたてられるカエルの状況がよくわかる。

○　中心発問に入るためには，これまでの辛さを感じさせることが必要である。1回め，2回め，3回めと追いたてられ，悲しみが大きくなるということを感じとらせておく。どこにもないから，生きていくために黒い川に入ったという状況をしっかりつかませる。それにより，きれいな池を見つけた時の安堵感がでるなど，中心発問で深まりが出てくる。

○　展開後段で，二段構えにしたことについて。

いきなり2番目の発問に入ったら出にくいのではないかの思いから，最初の発問で身近な経験を出させ2番目の発問にむけての準備とした。今日は時間的に余裕があったのでよかったが，中心発問で時間をとっていると，時間内では難しかったのではないか。

○　思いを一言（うれしい，いやな気持ち・・）で終わらせないで，くわしく語らせることが必要である。ことばでどう表現したらいいかトレーニングがいる。たとえば，切り返し発問やインタビュー形式で問うなど。「カエルさん，カエルさん，今どうですか？」「この水がなくなったらどうですか？」

○　カエルから，人間に返して聞き返してみる。

『自然・動物を大切に』というめあて一人間の立場から考えさせてみる。

○　生活科でゴミを拾う・・・ゴミを捨てない・・・きれいな海を守るという意味でつながり，それは生き物を守っている，ということにつながる。

○　広島県道徳教育研究協議会での広島大学大学院教育研究科准教授　朝倉　淳先生の講演より

発問を核として，山場をどうつくるか。

中心発問では，意見を出させたあと，いかに集団思考をするか。

類型化をして違いを見つける。

ゆさぶり，切り返しをいかにつくるか。――当然と思っていることを訊く。

先の予想を訊く。

条件を変えて，もしあなただったらどうかを訊く。